



二本松の提灯祭り

伝統を支える子どもたち

10月4日からの3日間行われた「提灯祭り」。今年も、市内が熱気と歓声に包まれました。提灯祭りの特色の一つとして、小太鼓・鉦などを「小若」と呼ばれる小学生から中学生までの子どもたちが奏しています。若連の厳格な指導の下、囃子の腕に磨きを掛け、祭り本番に臨んだ子どもたち。また、その子どもたちを支える地域の皆さんをご紹介します。



離子の腕に磨きを掛ける
 提灯祭りの祭り離子は、各町内それぞれ5〜8曲目ほど伝承されており、奏する時と場所が厳格に使い分けられています。
 子どもたちは、若連の指導の下、9月上旬より毎晩練習に励み、提灯祭り本番に臨みました。



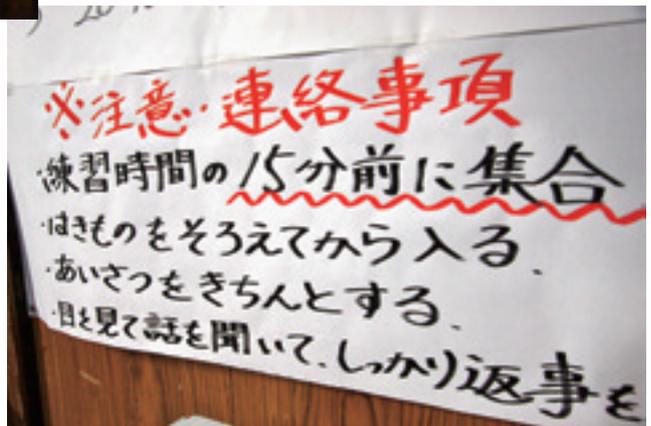
▲若連の指導を真剣に聞く子どもたち



▲はきものを揃えてから入る

礼節を重んじる
 練習の際には、子どもたちへ「時間を守ること」や「きちんとあいさつすること」など、社会生活で必要とされる行動の指導も行われています。また、年上の人への礼儀や年下の者を気遣う心についても若連から教えてもらっています。

【離子練習(指導)の取材に当たっては、根崎若連会と奈岡若連にご協力いただきました。】





宍岡若連会長
古山 英範さん

小若は、二本松の町全体にとって宝です。
小若には、例えこの町を離れることがあっても、お祭りの度に『ただいま』と帰ってきたら、『おかえり』と笑顔で待ち続ける若連や地域の人たちがいることを忘れないでほしいです。



根崎事務長
石井 賢治さん

子どもたちには、元気に楽しく太鼓を叩いて祭りを好きになってもらいたいですね。
子どもたちが太鼓を叩かないと太鼓台は動かない。子どもたちの太鼓の音が、若連の力になります。



根崎町内会長
石川 仁二さん

根崎町内会では、子どもたち自身の手で“提灯”に絵付けを行ってもらう体験などを行っています。家族みなでお祭りに参加していただき、子どもたちに今以上にお祭りを好きになってもらいたいですね。

未来を担う子どもたちへ

子どもたちの元気な囃子 ^{はやし} 元気な掛け声が 二本松を元気にする



今年の提灯祭りは終わりましたが、子どもたちは来年のお祭りに向けて、また練習に励み、今年以上のお囃子を披露することと思います。

若連一人一人、小若一人一人が、手を抜かず努力していくことで提灯祭りの伝統は継承されていきます。

数年後には、今の小若たちが若連となり、太鼓台の運行や小若たちの指導などを行い、祭りの中心で活躍していることでしょう。

祭りを通して成長した子どもたちの姿が今から楽しみです。

「提灯祭りは、一年に一度の晴れ舞台。若連や小若にきちんとした着こなしで望んでもらいたい。」との思いから若宮・松岡まちづくり連絡協議会の皆さんが中心となり、初めての試みとして今年から実施されました。

9月6日と13日の2回行われ、参加した小若の親御さんや若連が、「帯の締め方」や「はかまの着方」などを学びました。



若宮・松岡まちづくり連絡協議会
着付け教室